

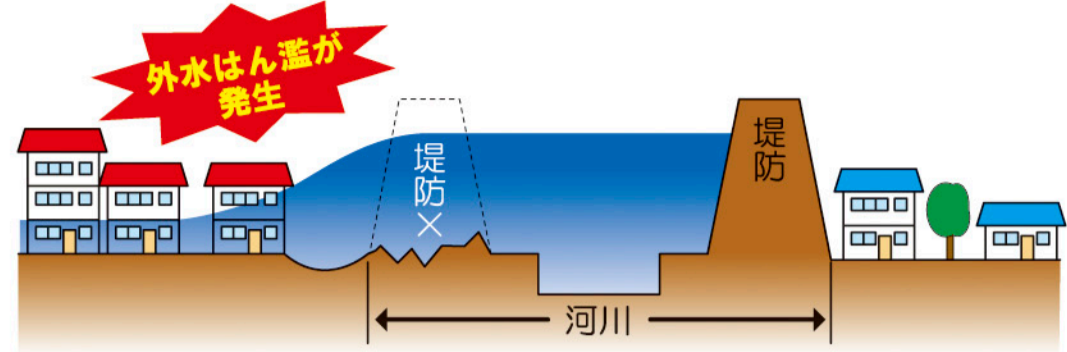
江戸川・利根川・荒川がはん濫した場合

想定した条件
この地図は、江戸川・利根川・荒川流域に大雨が降り、堤防が決壊した場合に想定される浸水区域を重ね合わせたものです。
想定した大雨の規模は、概ね200年に1回程度起こるものです。
・荒川流域：3日間総雨量548mm・江戸川・利根川：3日間総雨量318mm
なお、地図に示した浸水区域以外でも、土地の利用の変化や河川・下水道の整備状況によって浸水することがありますので、十分に注意してください。
また、大雨が降ると、常にこの地図のような浸水となるものではありません。

マップに示した浸水状況の説明

このマップは、荒川や江戸川、及び利根川で堤防が決壊した場合に「江戸川区で発生が考えられる(想定される)浸水状況」を示したものです。
想定した水害は、「外水はん濫」と言われるもので、下記のイメージ図に示すように「河川から水があふれ出す現象」です。

▼河川から水があふれ出すイメージ



新中川と江戸川に囲まれた地区が浸水被害を受ける決壊地点

- ・荒川の東側：上平井水門付近～埼玉県熊谷市付近(大戸橋)
- ・江戸川の西側：旧江戸川分岐点～茨城県五霞町付近(利根川分岐点)
- ・利根川の南側：茨城県五霞町付近(江戸川分岐点)～埼玉県行田市付近(武蔵大橋)

荒川と新中川に囲まれた地区が浸水被害を受ける決壊地点

- ・荒川の東側：西葛西地区付近～上平井水門付近

荒川より西側の地区が浸水被害を受ける決壊地点

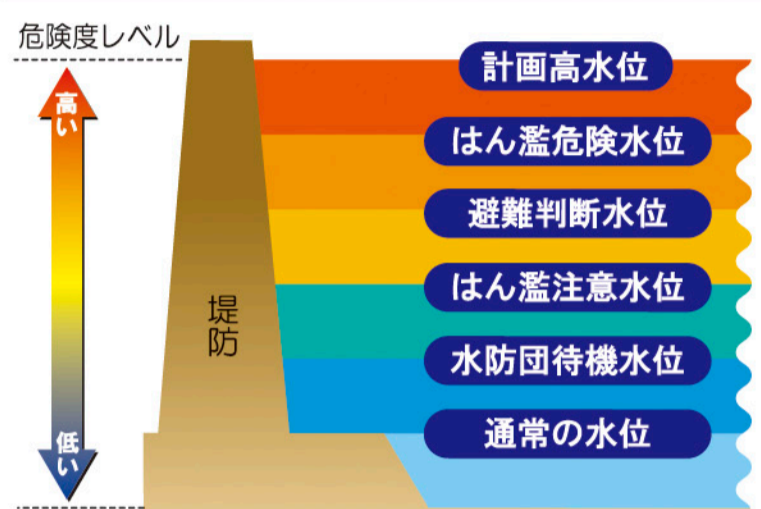
- ・荒川の西側：大島小松川公園付近～赤羽駅付近

●避難情報について

危険度レベル	避難情報の種類	みなさんの行動	発令時の状況
高い	避難指示	要援護者・一般の方共に直ちに避難を完了する	決壊につながるような大量の漏水や亀裂の発生など、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断されたとき。
	避難勧告	要援護者の方は避難を完了する 一般の方は避難を開始する	通常の避難行動ができる者が、避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状態。
	要援護者避難勧告(一般避難準備)	要援護者の方は避難を開始する 一般の方は避難準備をする	高齢の方など、避難に時間のかかる方が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害が発生する可能性が高まった状態。
低い	要援護者避難準備	要援護者の方は避難準備をする	高齢の方など、避難に時間のかかる方が避難準備を開始しなければならない段階であり、人的被害が発生する可能性がある状態。

※ 要援護者とは、高齢の方や何らかの障害がある方など、災害時援護を要する方を意味します。

●洪水予報発表の目安となる河川の水位



- **計画高水位**
河川を整備する上で基本となる水位であり、河川整備の計画において設定された洪水流量を流すことができる最高水位として設定された水位
- **はん濫危険水位(危険水位)**
洪水により、家屋浸水等の重大な被害を生じるはん濫の恐れがある水位
- **避難判断水位**
避難勧告等を発令する時の判断の目安、住民の避難判断の目安
- **はん濫注意水位(警戒水位)**
避難準備情報等を発令する時の目安、住民のはん濫に関する情報への注意喚起、水防団の出動の目安
- **水防団待機水位(指定水位)**
水防団が出動するために待機する水位

●川の状況を自分で調べましょう!

- 国土交通省 リアルタイム 川の防災情報**
リアルタイムの降雨量・河川水位を知ることができます。
<http://www.river.go.jp/>
- 気象庁 防災気象情報**
降雨量や、江戸川区に発令されている洪水予報を知ることができます。
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html>
- 荒川上流河川事務所 荒川上流水位データ**
荒川流域の降雨量・河川水位の移行を知ることができます。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>
- 荒川下流河川事務所 荒川下流水位データ**
荒川流域の降雨量・河川水位の移行を知ることができます。
<http://www.ara.go.jp/arage/index.html>
- 江戸川河川事務所 水害のライブ情報・災害情報**
江戸川の水害情報を知ることができます。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/>
- 利根川上流河川事務所 利根川上流域の風水害情報**
利根川上流域の水害情報を知ることができます。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonjo/index.html>

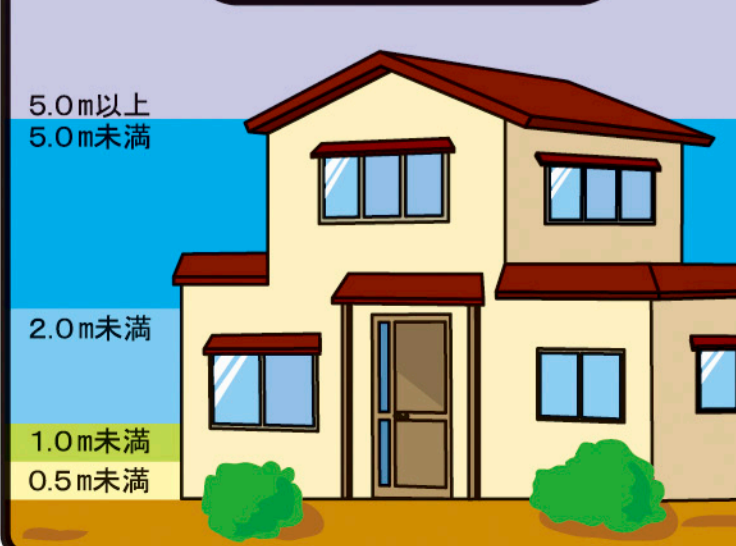
地域防災拠点と待避施設について

このマップには、「地域防災拠点」と「待避施設」の二種類の「避難する所」を記載しています。地震時の広域避難場所は、洪水時に浸水するおそれがあります。そこで「避難する所」を、以下のように使い分けています。

地域防災拠点
洪水が発生しても浸水しない安全な所。区民のみならず、原則としてこちらの場所に避難して下さい。

待避施設
避難する時間がない場合や避難に困難を要する等、やむを得ない場合に緊急避難する施設。浸水により使用不可能な階層やライフラインの停止など、避難後の生活に支障をきたす場合があります。

浸水深の目安



凡例

- 浸水した場合に想定される水深(ランク別)
- 0.5m未満の区域
 - 0.5~1.0m未満の区域
 - 1.0~2.0m未満の区域
 - 2.0~5.0m未満の区域
 - 5.0m以上の区域(この水深は発生しません)
- 区境界
 - 町・丁目界
 - その他の河川
 - 河川
 - 地域防災拠点
 - すべての階が使える待避施設
 - 2階以上が使える待避施設
 - 3階以上が使える待避施設
 - 避難方向
- 鉄道・道路**
- J R
 - 私鉄
 - 地下鉄
 - 高速道路
 - 主な道路

※隣接区市の浸水については、各区市のハザードマップ等で確認してください。

浸水時に1時間で移動できる距離 2.0km